

五十回忌法要 表白

敬うやまつて

大慈大悲だいじだいひの阿弥陀あみだ如来にょらいの尊前そんぜんに

白もうして言もうさく

本日ほんじつここに

有縁うえんの人々ひとびと 相集あいつどい

恭うやうやしく仏前ぶつぜんを荘嚴しやうげんし

懇ろねんごに聖典しやうてんを読誦どくじゆして

法名ほうみやう 釈しやく の

五十回忌法要ごじつかいきほうやうを勤修ごんしゆし奉たてまつる

それ惟おもんみれば

釈しやく 浄土じやうどに往生おうじやうし給たまいてより

すでに半世はんせい紀きを閲けみす

まことに歳月さいげつは人ひとを待またず

その人ひととなりものを知る者

いまや少すくなうといえども

我われら今いま 幸さいわいに

この法縁ほうえんに 遇あうことを得うるは

ひとえに その遺徳いとくの然しからしむるところ

まことに尊とうとき宿縁しゆくえんというべきなり

『唯信鈔ゆいしんしやう』には

こんじやう

今生こんじやうゆめのうちのちぎりをしるべとして

来世らいせさとのまへの縁えんをむすばんとなり

われおくれれば人ひとにみちびかれ

われさきだたば人ひとをみちびかん

生々しやうじやうに善友せんぬとなりて

たがひに仏道ぶつどうを修しゆせしめ

世々せせに知識ちしきとして ともに迷執めいしゆをたたんと

仰おおせられたり

然しかれば

ここに有縁うえん参詣さんけいの人々ひとびと

希ねがわくは 深ふかく 故人こじんの遺徳いとくを思しのびつ

はるかに そのみ跡あとを慕したいて

聞法もんぽう求道ぐどうに精進しやうじん

今生こんじやうには 相携あいたずさえて

本願念仏の大道を歩み

ほんがねんぶつ
とうらい

だいどう
あゆ

そかい
と

当来には

往生浄土の素懐を遂げて

くえい

いつしよ

みようか

え

俱会一処の妙果を得んことを

いつさいさんぼう

あいみんのうじゆ

たま

一切三宝

哀愍納受し給え